

3 団体に助成金贈る

佐賀市

安田火災記念財団(後藤藤康男理事長)は18日、佐賀市神野東の同社佐賀支店で、本年度助成団体に選んだ県内の3団体に助成金を贈った。写真



助成を受けたのは「中原たすけあいの会」(中原町・平野征幸代表)、「ふくしさとつくりの会」(佐賀市・土井眞信代表)、「全国IDDM連絡協議会」(同井上龍夫代表幹事)。

助成金は各三十万円。永谷小太郎支店長から助成決定の通知書を手渡された全国IDDM連絡協議会の岩永幸三さんは「活動費が厳しく、メンバーはみな手弁当。NPO法人を取得し、活動を充実させたい」と話していた。

助成金は各三十万円。永谷小太郎支店長から助成決定の通知書を手渡された全国IDDM連絡協議会の岩永幸三さんは「活動費が厳しく、メンバーはみな手弁当。NPO法人を取得し、活動を充実させたい」と話していた。



NPO設立資金の助成決定通知書を飯田支店長から受ける宮崎21高齢者福祉研究会の沢田孝子副会長

NPO 設立資金贈呈

安田火災記念財団 宮崎市の2団体へ

安田火災記念財団が民間福祉団体へ民間非営利団体(NPO)法人設立資金を贈る本県関係の贈呈式は十七日、宮崎市の安田火災海上保険宮崎支店であった。資金を受けたのは同市内で活動しているほにわの会仲間の家(森富貴子会長)と宮崎21高齢者福祉研究会(垂水卓夫会長)。

贈呈式には森会長や宮崎21高齢者福祉研究会の沢田孝子副会長、同支店や県の関係者が出席。飯田裕久支店長が資金の趣旨説明をした後、各代表に助成金(各三十万円)決定通知書を手渡した。

ほにわの会仲間の家は「障害者と共に生きる」を理念に一九八三(昭和五十八)年に設立。知的障害者の働く場「仲間の家」を運営するなど障害者の生活支援をしている。同日、県知事からNPO法人の認証を受け、二重の喜びとなった。宮崎21高齢者福祉研究会は九一年に立ち上げた。「高齢者の健康と生きがいづくり」を目標に、積極的なボランティア活動を展開。NPO法人化は九月をめぐりに準備している。

安田火災記念財団のNPO法人設立資金助成は昨年からの。今年は全国で二百五十七件の応募があり、選考の結果、百団体への資金助成を決めた。

NPO 法人設立資金助成岡山からいごどもともにも交流会

安田火災記念財団

財団法人安田火災記念財団は、本年度の特定非営利活動法人(NPO)法人設立資金の助成団体百団体を決定した。岡山県関係では「いごどもともにも交流会」(岡山市丸の内二丁目 NPO 共同事務所内、佐々木正美代表)が選ばれた。助成額は三十万円。

安田財団がNPO設立へ助成

安田火災記念財団の本年度社会福祉助成金の贈呈式が26日、熊本市の安田火災海上保険 熊本支店であった。県内からは「在宅支援ゼネラルセンター ゼネッセ」(熊本市、田中良明代表)と「やつしろ配食サービスワーカーズ パセリ」(八代市、森下恵子代表)が選ばれ、檀原彰支店長が30万円の目録をそれぞれ手渡した。ゼネッセは、主に熊本市内の障害者やその家族に在宅でできる仕事をあっせんしている。パセリは八代郡市の高齢者に手作りの弁当を配達している。2団体は事業の安定・拡大を目的にNPO(非営利法人)の設立を目指している。

安田火災記念財団（有吉孝一理事長）の平成12年度社会福祉（NPO法人設立資金）助成贈呈式が21日、東京・新宿の安田火災本社43階で行われた。

当たった松尾武昌・全国社会福祉協議会常務理事は、全国的に配分漏れがないようにしたの任意団体としての活動実績を重視した③新しくチャレンジするところ

も盛り込んだ——など選考基準のあらましについて開示した。結局、全国100団体に30万円ずつの助成が決まっているが、関東地区は47団体に決定し、この日はこのうち40団体が出席した。また懇親会では、明

ちこちで見られた。有吉理事長は、「当財団は昭和52年に設立し20年余になるが、主として障害者福祉等に力を入れてきた。つ。安田火災とともに社会福祉事業の下支えになる考

えを表明した。なお、茨城県日立市のワークスたんぼを支える会の森田隆昌さんが代表して、有吉理事長から決定通知書の交付を受けた。

「100団体に出席して情報交換する光景があるが、今後一層の強化を望む」とあいさ

つ。安田火災とともに社会福祉事業の下支えになる考



災財団
安記

NPO法人設立資金助成 「100団体」に3000万



関東地区贈呈式であいさつする有吉理事長（上）、車いすでの出席者も多く財団への期待は大きい（下）

